

H24.10.13

好きな患者、苦手な患者



長尾和宏 (ながお・かずひろ)

東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。平成7年、尼崎市で「長尾クリニック」を開業。外来診療から在宅医療まで“人を診る”総合診療を目指す。医学博士。労働衛生コンサルタント。関西国際大学客員教授。54歳。ブログ(<http://www.nagaoclinic.or.jp/docto rblog/nagao/>)が好評。

医者も人の子。好きな患者さんもいれば、苦手な患者さんもいるはずです。私が苦手なのは、一度にたくさんの要求をする患者さんです。初診で来られて、問診用紙に「血圧と糖尿、肝臓、腰、不眠とめまいを診てほしい」というふうに書かれる患者さんが時々おられます。6つの訴えは言わなきゃ損という感じにみえます。

しかし、医者は魔法使いではありません。まったく異質

な問題を一度に提示されても、うまく対応できません。そんな場合、一番大切な順番に並び替えをしてから解決していきます。

しかし、できればあらかじめ自身で優先順位をつけてしまふと非常に助かります。

「優先順位」

「優先順位決めて受診して」

嘗ておられる患者さんがおられます。次に来られるかどうか分
かりないので、どうしても診察に力が入りません。

さらに多種類の薬を要求する患者さんも困ります。「あれもこれも」と多種類投薬を要求しておきながら、帰り際に「こんなに薬漬けにされてしまいます。」と言われると、「え？」と首をかしけります。

しかし、もし点滴を失敗しても「かまへんよ」と言つていただける寛大な患者さんに

医者と患者さんの関係は單純ではありません。しかし、友人や夫婦と同じようにで起きるだけ長く付き合うことができるは最高です。また「看取る」といつても、それは私の方がたまたま30年遅く生まれただけのことです。順番で私が看取る役になっているだけです。医者も患者も生身の人間。生涯、良い関係を構築できたら最高だと思います。

す。診てもらいたいことがたくさんある場合でも、事前に上位3つ以内にまとめてお

ドクターショッピングを繰り返す患者さんも苦手です。まるで回遊魚のように、3年

だけるところなんに助かる」と云ふか。

」を診させていたたかべり、いちら
らにもその徳のおすそ分けを
いただいたような気分になり
まし。

な問題を一度に提示されても、うまく対応できません。そんな場合、一番大切な順番に並び替えをしてから解決していきます。

しかし、できればあらかじめ自分自身で優先順位をつけてしまふと非常に助かります。

世間話も潤滑油として、多少は必要かもしません。要は程度の問題です。混雑具合をみながら世間話をしていたりは、半分おしゃべりを楽しみに来られているのでしょう。

以上のように困った患者さんは、感謝の気持ちをもって人には、もともとのような性格である場合と、実は認知症の場合があります。認知症を疑うなら、頭のCTでも撮りたいところですが、それを言うと怒るかもしれません。そんな時、家族に横にいていた者とのエネルギーをもらいに来られるものです。それはそれでいいのですが、患者さんのほうが元気な時があります。その時は患者さんのパワーをいたします。医者は一

てください。次に約束を守らない患者さん。予約を何度もすっぽかす患者さんも困ります。おかげで少年のようになると損をします。話が異常に長い患者さん

ドクターショッピング　精神的・身体的な問題に対しても医療機関を次々と、あるいは同時に受診すること。がんや難病などの場合、より良い説明、診断、結果を求めて、また納得のいく答えを求めてさまでう人が多い。

Dr. 和の歯医者日記

「医者の本音」シリーズ⑤

ひよう